

「棚田式魚道」は鮎が良
く上ると好評だったが、
普及するためにはその機
能の定量的・理論的な裏
付けが必要とされた。

岐阜大板垣博研究室で
先生が大学院で探究する
ことを勧めて頂けた。
経営者としての責任と両
立できるのか。魚道機能
の裏付けも重要だ。迷い
に迷ったが、博士課程の
大変さを理解せぬまま挑
戦する事となった。

受験日が2カ月後に迫
る頃、韓国の大学から現
地の河川環境の視察依頼
を受けたが、渡韓の3日
前に胆嚢の緊急手術で入
院することに。この1カ



博士号への挑戦

山辰組 社長 馬淵和三

月の入院を受験勉強に充
てて何とか合格できた。
だから」と休学を勧めら
れ、会社経営に専念。2

入学後、根尾川など幾
つかの棚田式魚道を右・
中央・左と3区分し、天
然鮎の遡上経路を調査。
左右から全体の3分の2
以上が上る扇形の側面の
有効性や、魚道全体を白
く覆い鮎を守る泡のメカ
ニズムなど、各種調査・
実験でこの魚道の多くの
特長を裏付けた。

入学して5年、建設不
況の時代となっていた。
本業と学問の両立はさす
がに困難で退学を申し出
た。指導教官の応用生物
科学部平松研教授から
「富士山でいうと8合目
まで登っていきたくない。」